市民活動の原動力

若い人もきっかけさえあれば

富岡 賢治 市長

子どもたちに自然体験をさせるボランティア団体を長く支援してきた。

仕事や家事の合間にできることを

赤荻（あかおぎ） 利子 さん

高崎朗読奉仕会 会長
朗読ボランティアとして活動して16年になる。乗附町在住。

「良かったよ」という声が励みに

吉田 信子 さん

高崎朗読奉仕会 副会長
平成11年から朗読ボランティアを始める。上中居町在住。

活動が自分のエネルギーに

石井 節子 さん

高崎市文化協会群馬支部長
日本舞踊は30年以上の経験がある。棟高町在住。

市民と市長が高崎のさまざまなテーマで語り合う「ほっとＴタイム」。
今回のお相手は、目の不自由な人のために「声の広報」を作成している高崎朗読奉仕会の赤荻利子さんと吉田信子さんのお二人と、高崎市文化協会群馬支部長の石井節子さんに市民活動の原動力について話をお聞ききしました。

市長　高崎朗読奉仕会は「声の広報」を目の不自由な方に届けてくださっていますが、この活動に打ち込もうと思ったきっかけは何ですか？

赤荻　本や新聞など、とにかく読むことが好きなものですから、ちょっと気持ちを変えて朗読の養成講座に参加してみました。

吉田　私は民謡や詩吟をやっていて、声を出すことが好きなのでやってみようと思いました。赤荻さんも私も市の広報を見てボランティア養成講座を知りました。

市長　そうすると奉仕をしようと思って始めたのではないんですね？

赤荻　そうなんです。ボランティア精神なんていうものではなかったんです。

市長　赤荻さんや吉田さんのように、10年以上も続けられる方は少ないですよね。自分の得意分野や好きなことの方が案外長続きするというのがありますからね。これまで活動をしていて苦労はありませんか？

吉田　特に苦労を感じたことはないです。楽しみながらやっています。

赤荻　私も苦労というのはないですね。始めたころは仕事をしていましたし、家庭もありますので、その合間にできることをしてきました。

市長　がんばり過ぎず肩の力を抜いて、自然に活動できるのがいいのかもしれませんね。

赤荻　生活のリズムになるというのがいいのかもしれません。

若い人にとっても ボランティアが身近に

市長　生涯学習というのも市民活動の一つだと思いますが、石井さんが文化協会の群馬支部で活動されるようになったのはどのようなことがきっかけですか？

石井　3人目の子どもが生まれた後に日本舞踊を始めたのがきっかけです。少しは女性らしくなるかな、と思って（笑）。

市長　自分自身を磨く活動以外にも地域の文学者の業績を広める活動もしていますよね？

石井　もともと文化協会の群馬支部は、郷土の詩人・山村暮鳥と歌人・土屋文明の功績を伝えていく活動をしていました。子どもたちから詩歌を募集し、優秀者を表彰する活動も20年以上続けています。

市長　そういう活動も長く続けることは大変だと思います。お手伝いされる方も限られてしまうのでは？

石井　皆さん高齢化してきていますね。若い人たちがなかなか…。

市長　若い人をボランティア活動や文化活動に誘導することは大事ですよね。かといってことさらに若い人向けにそういう催しを考えても長続きしないだろうけど…。

赤荻　最近は若い人にとってボランティアが身近になっていると思います。周りでもやっている人が多いです。3月に朗読ボランティア講座をやったとき、高校生が初めて参加したんです。実際の活動は学校があるので難しいですが、若い人の意識が変わっているのを実感しました。

市長　女子大の学長をしていたときに感じたのですが、若い人が意外に本物志向なんですよ。本物に触れたいという意識が強い。昔とちっとも変わっていませんよ。きっかけさえあれば、ボランティア活動にも入り込めるんじゃないかな。

活動できていること自体がうれしい

市長　「声の広報」を聞いた人から感想をもらうことはありますか？

吉田　はい。「良かったよ」とお声をもらうと、がんばっていいものを作ろうという気持ちになります。

石井　昨年の震災で被害を受けた茨城県の大洗町を支援しました。初めは何かしてあげなければという思いもあったんですけど、活動を続けていると、こちらがエネルギーをもらうんですね。会員の気持ちもまとまって、次に何をしようかって盛り上がってきます。

市長　ボランティア活動は自己実現のためとか自分自身を磨くためとかって言われます。最初にこれを聞いたときちょっと白々しいと感じたこともあったんですよ。やっぱり人間として人のために尽くそうというのが大事なんじゃないかと。でも両方大事なんですね。

3人　そうなんです。

市長　これからも元気で活動を続けてください。今日はありがとうございました。

3人　ありがとうございました。

撮影場所：4月1日に開館した市民活動センターソシアス（足門町）

高崎朗読奉仕会の活動

編集作業では、一言一句念入りに確認する

高崎朗読奉仕会は、会員数84人。広報高崎のほか、たかさき市議会だよりや図書館だよりなどの音訳も行っている。ページごとに担当を決めて各自が自宅などで録音。そのテープを持ち寄って編集する。広報1号分を録音すると3時間ほどの長さになる。

「声だけで伝えるのは簡単なようで難しい。聞いた人にきちんと内容が伝わるかを常に考えています」と赤荻さん。